

第4学年 B組 社会科学学習指導案

指導者 岩佐祐作、小山竜、齊藤健将、
佐賀寛夫、佐藤沙緒理、千葉貴大

1. 単元名：「交通の様子 ～秋田内陸縦貫鉄道を題材に～」

【単元の目標】

○秋田内陸縦貫鉄道双六を意欲的に取り組み、秋田県内陸部の地域的特色を知り、鉄道会社や利用している人々の話を聞く中で、秋田内陸縦貫鉄道を守ろうという願いを感じ取り、鉄道の廃線危機を切実な問題と捉えることができる。【関心・意欲・態度】

○秋田内陸縦貫鉄道双六のクイズについて考えながら地域的特色を把握し、鉄道を守ろうとしている人々の言葉に触れることで児童自身が切実な願いを感じ取り、自分の言葉でまとめることができる。【思考・判断・表現】

○秋田内陸縦貫鉄道の利用者が減少している状況を、利用者の推移を表した折れ線グラフから適切に読み取ることができる。【技能】

○秋田内陸縦貫鉄道双六を行い、秋田県の内陸部にはどのような地域であるのかを理解することができる。【知識・理解】

2. 子どもと単元

(1) 子どもについて

4年 B組は計34名のクラスである。長期休業の際は家族旅行で海外へ行く児童も少なくない。そのため、海外の気候、風土、食事などの文化が日本とは異なることをすでに知っている児童も多い。多くの児童が社会的事象へ関心をもち、積極的に発言する様子も多く見られるが、秋田県の内陸部の地域に関してはあまり知らない状態である。交通に関しても飛行機や新幹線の利用経験はあるものの、秋田県の内陸部を南北に通っている秋田内陸縦貫鉄道については、ほとんど知らない状態である。秋田内陸縦貫鉄道は利用者の減少から廃線危機の状況にあるが、この鉄道は内陸部に住む人々の生活には欠かせないものであり、秋田県に住む者にとって関心の深い社会的事象である。それ故、これについて授業で取り上げることで児童自身が秋田内陸縦貫鉄道に関心をもつ機会をつくる必要がある。

(2) 単元(題材)について

本単元は、現行の小学校学習指導要領社会編の第3学年及び第4学年の目標(1)「自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。」に関連がある。この単元は内容(ア)にある「身近な地域や市(区、町、村)の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場

所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など」を踏まえて設定されたものである。

秋田内陸縦貫鉄道はもともと 2 つあった路線を 1 つに統合し、1989 年に全線開通した秋田の内陸部を南北に通っているローカル線であるが、利用者の減少による経営不振が続き、廃止が取り沙汰されている。モータリゼーションによる車社会の到来に加え、県内の人口が減少傾向にある秋田県にとって、経営は難と言わざるを得ない状況にある。しかし、内陸部に住む人々にとっては通勤、通学、買い物など実生活において無くてはならない移動手段となっている。もし秋田内陸縦貫鉄道が廃止されれば、内陸部に住む人々の生活が困難になるのは必然である。そのため、鉄道会社では観光客を増やすために電車ガイドの配置、オリジナル商品の開発、こぐま亭というレストランの設置、国内だけに限らず海外への PR 活動も積極的に行っている。

こうした現状を踏まえ、鉄道会社や内陸部の人々の気持ちを理解し、児童自身がこの問題を切実な問題であると捉え、秋田内陸縦貫鉄道に関心を持つことができるような授業を展開したい。

(3) 指導について

本実践では、児童自身が秋田内陸縦貫鉄道の存続について切実感をもって捉えさせたい。そのために行うことは 2 つある。1 つ目は秋田内陸縦貫鉄道の路線を活かした双六活動を行い、秋田の内陸部における地域的特色や様々なイベントに触れ、秋田県の内陸部の概観をつかめるようにすることである。双六にはそれぞれの地域に関するクイズを用意し、意欲的に秋田県の内陸部の地域について学べるよう考慮する。その上で秋田内陸縦貫鉄道が、特色ある地域を通っていることを確認し、もし秋田内陸縦貫鉄道が廃止されれば、これらの魅力ある地域を訪れることが困難になるということを意識づける。2 つ目は存続問題を切実に感じさせるために、鉄道会社の社長と秋田内陸縦貫鉄道の利用者をゲストティーチャーとして招き、講話をしていただく。実際に秋田内陸縦貫鉄道を必要としている人々の話に触れることで、児童自身がその願いを感じ取り、自分も守りたいという気持ちを育てたい。

3. 単元の構想 (2 時間取り扱い)

第 1 時：秋田内陸縦貫鉄道の双六を用いて、秋田県内陸部の地域的特色を理解する。

第 2 時：様々な視点から秋田内陸縦貫鉄道の存続問題を考える。

4. 本時の概要

■第1時：秋田内陸縦貫鉄道の双六を用いて、秋田県内陸部の地域の特色を理解する。

(1) ねらい

○秋田内陸縦貫鉄道はどのような地域を通っているのか知るために、その沿線地域についての双六を意欲的に行うことができる。【関心・意欲・態度】 【知識・理解】

(2) 準備

<教師>

車両の写真(奥羽本線、新幹線、内陸線)、電子黒板(秋田県地図、写真資料)、双六(双六盤、さいころ、コマ、クイズ)、学習プリント

<児童>

筆記用具

(3) 学習過程(第1時)

時間	学習活動	教師のかかわり	資料・評価
導入 (10分)	<p>1. 内陸線の車両の写真を見て、その存在に気づく。</p> <p>2. 電子黒板を用いて内陸縦貫鉄道とその会社についての概要を知る。</p>	<p>○内陸線の車両の写真を提示する。その際、秋田県にある他の路線の事も留意しつつ、秋田内陸縦貫鉄道が内陸部のみを通っている路線ということに注目させる。</p> <p>○電子黒板を用いて内陸縦貫鉄道とその会社に関するクイズや写真資料を提示する。資料を提示する際は、鉄道が秋田県のどの位置を通っているのかを確認できるように秋田県の地図も用意する。内陸線の歴史や現在の様子についても紹介する。</p>	<p>車両の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥羽本線 ・新幹線 ・内陸線 <p>電子黒板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県の地図 ・写真資料
展開① (20分)	<p style="text-align: center;">秋田内陸縦貫鉄道はどのような地域を通っているのだろうか？</p> <p>3. 秋田内陸縦貫鉄道の通っている沿線地域について、有名なものやイベントなどを1つ1つ注目できるようにするために、各班に分かれて双六活動を行う。また、得点(ないりっくん)を獲得するためにチームで協力して双六活動を行う。 (グループ活動：関心・意欲・態度、知識・理解)</p>	<p>○双六ルールを説明し、各班に分かれて秋田内陸縦貫鉄道の双六活動をさせる。双六は角館駅から鷹巣駅までのコースを準備し、それぞれの駅についての有名なものやイベントについてのクイズを用意する。指導者は各班が双六を適切に扱い、活動できるように机間指導する。本時では1班に1人の指導者がつく。</p> <p>□ルール(班対抗)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点(ないりっくん)が多い班が勝利。 ・全員が順番にサイコロをまわす。 ・クイズは班全員で考える。 ・解答者はサイコロを振った人とする。 	<p>双六</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双六盤 ・さいころ ・コマ ・クイズ <p>学習プリント</p>
展開② (15分)	<p>4. 電子黒板で提示される双六の各マスのクイズに答え、沿線地域それぞれの特色や様子を知る。 (グループ活動：知識・理解)</p>	<p>○各班によって答えたクイズが異なるため、クイズを全体で振り返る。この時、双六活動の際にクイズに答えていた班に答えさせ、双六で得た知識を紹介していく形式とする。また、全ての班が止まっていないマスのクイズの場合は、各選択肢に挙手をさせ、クイズを考えてから解答を見せていく。</p> <p>○最後にクイズの答えを配る。</p>	<p>○双六活動を意欲的に行っている。 【関心・意欲・態度】(観察)</p> <p>○双六活動で知り得た情報をクラスで共有しながら学習プリントの答えを埋め、秋田内陸縦貫鉄道はどのような地域を通っているのか知ることができる。【知識・理解】(学習プリント)</p>

■第2時：様々な視点から秋田内陸縦貫鉄道の存続問題を考える。

(1)ねらい

○秋田内陸縦貫鉄道の利用者の折れ線グラフから課題に気づき、鉄道を守ろうとしている人々の言葉に触れることで、切実な問題であると感じ取ることができる。【関心・意欲・態度】

(2)準備

<教師>

利用者の推移を表した折れ線グラフ、電子黒板、振り返りシート

<児童>

筆記用具

(3) 学習過程(第2時)

時間	学習活動	教師のかかわり	資料・評価
展開□ (15分)	1. 秋田内陸縦貫鉄道の利用者数を示したグラフから、以前よりも利用者が減っていることに気づいた上で、なぜこのような推移をしているのかを考える。 2. 鉄道に乗る人が減ると会社はどうなるのかを考える。	○折れ線グラフ(利用者数)が年々減っていることに気づかせ、なぜこのような推移をしているかを考えさせる。 また、2008年や2011年の利用者が増えた年に児童が気づいた場合は、なぜ利用者が増えたのかを問いかけた上で、1時間目の導入で使用した電子黒板を振り返る。 ○今後同じく鉄道に乗る人が減っていくと会社はどうなるのかを考えさせる。	利用者の推移を表した折れ線グラフ 電子黒板
秋田内陸縦貫鉄道を守ろうとしている人々は、どのような願いを持っているのだろうか？			
展開□ (20分)	3. 鉄道会社の方の講話を聞き、秋田内陸縦貫鉄道を残すことが切実な問題であることを感じる。(個人：関心・意欲・態度) 4. 鉄道の利用者の講話を聞き、秋田内陸縦貫鉄道を残すことが内陸部に暮らす人々にとって切実な問題であることを実感する。(個人：関心・意欲・態度) 5. 鉄道会社と鉄道利用者の人々の話を聞いて、疑問に思ったことがあれば質問する。	○鉄道会社の方の紹介をし、鉄道会社の立場から秋田内陸縦貫鉄道が無くてはならない鉄道であることを話していただく。 ○秋田内陸縦貫鉄道の利用者の方の紹介をし、生活に欠かせない鉄道であることを話していただく。 ○児童に疑問が残らないように質問の時間をつくる。	○秋田内陸縦貫鉄道を守ろうとしている人々の話から、児童自身が願いを感じ取り、自分自身も守りたいと切実に思うことができる。【関心・意欲・態度】(振りかえりシート)
まとめ (10分)	6. 振り返りシートに本時(2時間分)の内容の感想や意見を記入する。指名された人は、記入した内容を発表する。	○本時の学びを振り返りシートに記入させる。秋田内陸縦貫鉄道の問題を切実な問題と感じ取り、自らが残したいと考えている児童数名に発表させる。	振り返りシート



ゴール!

秋田内陸縦貫鉄道本社に到着!!
1 最初にゴールした人に
1 ないりっくんプレゼント!

●秋田内陸縦貫鉄道の旅●

角館～阿仁合間すごろく

<ルール>

- ① 班対抗で行います。イベントをクリアしながら得点(ないりっくん)を集めてゴールを目指しましょう! (すごろくは全員参加です!)
- ② 得点(ないりっくん)を多く獲得した班が勝利です!

⑩ トンネル



スタート!



① けんけんマス



② 羽後太田駅

③ 西明寺駅

④ 八津駅

⑤ 羽後長戸呂駅

⑥ 松葉駅

⑦ 羽後中屋駅

⑧ 左邊駅

⑨ 上楡木内駅

⑪ 阿仁マタギ駅

⑫ 奥阿仁駅

⑬ 比立内駅

⑭ 岩野目駅

⑮ 笑内駅

⑯ 萱草駅

⑰ 荒瀬駅



秋田内陸縦貫鉄道のキャラクター「ないりっくん」です!





スタート!

●秋田内陸縦貫鉄道の旅●
鷹巣～阿仁合間すごろく

<ルール>

- ①班対決で行います。イベントをクリアしながら得点(ないりっくん)を集めてゴールを目指しましょう！(すごろくは会員参加です)
- ②得点(ないりっくん)を多く獲得した班が勝利です！



ゴール!

秋田内陸縦貫鉄道本社に到着!!
1 最初にゴールした人に
1 ないりっくんプレゼント!

秋田内陸縦貫鉄道のキャラクター「ないりっくん」です!



